

広報おおさき

創刊666号

（広報おおさきを振り返る）

昭和24年4月15日に『大崎町民報』第1号を発行してから、63年の年月が経過しました。

今号で666号を迎える『広報おおさき』も、大崎町の様々な歴史の歩みを見続けてきました。

今回の特集は、広報おおさきの63年を振り返るとともに、666号を契機に各世代の方々に興味を持って頂けるよう、100号ごとの節目に発行された広報誌を紹介いたします。



63年の歴史

創刊第1号は、B4タブロイド版といわれるサイズで1色刷りのものでした。昭和36年11月号からB5判の見開きに変更になり、現在のA4判になったのは、平成9年4月号からです。

広報誌に欠かせないのが『写真』です。誌面に初めて写真が掲載されたのは、創刊から4年後の昭和28年8月号です。その時掲載された写真は、田原川の災害写真でした。記事には、70年来の未曾有の大洪水が取り上げられ、当時、この災害をいかにして未来へ残そうとしたかが誌面から感じ取れました。

広報誌に初めてカラーが採用されたのは、昭和52年11月号です。完成した新庁舎が表紙にカラーで紹介されています。

その後、しばらく、表紙のみカラーで構成され、全頁カラーが採用されたのは、昭和61年4月号からです。

平成9年4月号からA4判となり現在に至ります。

▼創刊号『大崎町民報』昭和24年4月15日発行

